



「169のころ」

それでいい!

一人遊びや並行遊びから、相手の気持ちを理解、受け入れようとし、気の合う友だちと”一緒に遊ぶ”ということを楽しめるようになる4歳児。そして互いを認め合うことも少しずつ見えってきました。

3、4、5歳児と居残りの時間を過ごしていたある日。3歳児のお友だちがあるお友だちの歩き方のお話をしているのが聞こえてきました。それを聞いた4歳児のKさんが、「〇〇さんはそれでいいの!」と言ったのです。このKさんは普段は恥ずかしがりやさんで、そのお友だち(〇〇さん)に対し、控えめな感じに接する子でした。

“それでいいの” それこそが、園の理念にあるように「一人ひとりの子どもを大切に心を育てる」とあるように、一人一人尊重し合っている心の成長に嬉しくなりました。

これからも理念を大切に、個性というカラーを引き出していきたいです。



219粒の種  Vol.4 『あなたの優しさのおかげ』



いよいよ9月。早いもので1年の折り返し地点になりましたね。園では3歳未満児さんのザ・リトルワン、3歳以上児さんのザ・ワンインザガーデンと大きな行事が続きます。

「できない理由を探してあきらめたくないんです。」先日、職員同士の会話から、こんな声が聞こえてきたのです。「できない理由を探すといくつでも出てくるけど、それを言い訳にしたくない。そんなことより子どもをどうしたら幸せにできるか、を考えたいです。」と続くのです。私はびっくりしました。一体何が彼女たちの原動力なのだろうかと。

子どもは幸せを感じたとき、嬉しいとき、言葉を越えた眩い光を放ちます。あの光が見たい。たった1つの保育かも知れない。たった1つの食育かも知れない。たった1つの行事かも知れない。しかし、その、「たった1つ」がもたらす、子どもの無限の可能性の広がり。この2つへの想いが、私たちの原動力。

「悲しみ」を古の人々は「美しみ」、さらには「愛しみ」と書くことがあったそうです。悲しいからこそ本当に美しいものや愛が分かる。コロナという負の情勢のすぐ裏にあるのは本当の美しさと愛。そこに光を求める気持ちさえあれば、全ての悲しみはどこまでも美しく変貌させられる、ということでしょう。

お子様にとっては一生に一度きりの運動会。
ぜひ、生涯で2度と同じものは見られないきらめきを、ご一緒に。

